

木もれ日通信

Komorebi Tsushin

第17号

平成16年7月
つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達郡月舘町大字下手渡字寺窪7
TEL024(573)3888 FAX024(573)3887
E-mail: hanakobo@safins.ne.jp
休館日/毎月第1、第3火曜日(休館日の前日は17時まで営業)
つきだて花工房ホームページ <http://odehime.or.jp/hanakobo>

つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続ける皆様の公共施設をめざします。

花のアルバム

アルバムの
17ページ

オクラの花

あくまでも暑い、夏の昼
太陽と入道雲と蟬の声
かき氷のひんやり。
涼風が心地よい、夏の宵
風鈴、ホタル、線香花火
夕焼けのあかね色。
対照的な夏の情景が
心に浮かぶときがある。
今年の夏は、どんな夏か。

木もれ日



照りつける太陽の下、夏の畑は元気に育つ野菜たちのオンパレード。真っ赤に熟したトマト、カラフルなピーマンやトウガラシ、つややかなバジル、イタリア料理の代表ズッキーニ…畑を賑わす数多い野菜たちの中に、園芸種も顔負けの艶やかな花を咲かせる野菜がオクラです。

レディースフィンガー(貴婦人の指)

とも呼ばれるオクラの花は、アオイ科の一年草。花の命は短く、早朝に花を開き、午後にはしぼんでしまう一日花。花弁の奥を染める深紅色の花芯が印象的です。花が落ちて2〜3日目がやわらかく食べごろで、収穫が遅れると硬くなるのでご用心。

健康野菜

熱帯アフリカ原産のオクラが、日本に渡来したのは明治のはじめといわれますが、野菜として食べ始めたのは、戦後かなりあとになってからです。太平洋戦争中、台湾や東南アジアで自給生活をした人々が、帰還後、現地で食べたオクラの美味しさを思い出して栽培するようになったのがきっかけとか。栄養価が高いオクラが、多くの人々の命を支えてくれたのでしょうか。

太陽が大好きなオクラは、ビタミン、



タンパク質を多く含む健康野菜。輪切りにすると切り口が雪の結晶のようです。ぬめりのある食感、ベクチン・ガラクトタン・アラバンなどの粘質性の多糖類を含んでいるためです。オクラの種子はコーヒーの代用ともされてきました。煎って粉にし、お湯を注いで、カフェイン無しのコーヒーをお試しください。

曇り空の下で



しめやかに咲くカクアジサイ。
つきだて花工房には約500本の紫陽花が
が植栽されています。

お日様の下よりも、曇りや雨のほうがよく似合う花があります。あじさい。薄い青色、濃い紫色、淡い紅色、そして白…色とりどりの紫陽花の花は、梅雨の季節を彩る代表的な風物詩。紫陽花の小径を歩くと、憂鬱な季節のふさぎがちな心が落ち着きます。

紫陽花は「ユキノシタ科」の落葉低木、4片の花に見えるのは萼で、本当の花は中央にある粒状のものです。雨に洗われながら次第に色褪せる「四葩の花」。渡り鳥の燕は、その姿を見て南に帰る目が近づいていることを知るのだそうです。今年もつきだて花工房の軒下に燕が巣を作りましました。巣立ちの日、いよいよ盛夏が訪れます。

涼風が心地よい夏の休日

お気に入りの椅子に腰をかけて
いつもより少し遠くを眺めてみると、
時間がスローに流れてゆく感じ…。

夕刻はこのほか心地よく、今、ここにいる幸せを実感できそう。
夏の日の休日をつきだてて花工房でお過ごしください。



あつたか家族

チウクアウトの朝、やさしい工房でお目当ての野菜が見つかったようです。「桑の商品を初めて見ました。はちくは、1本200円だと思ったら、束で2000円なので驚きました」と、さいたま市からお越しのお母さまがおっしゃっていました。



福島市の五十嵐裕子さんご家族

宇波野さんのご主人は九州男児。もうすぐ赤ちゃんが誕生！家族が増えたらまた遊びに来てください。



月舘町布川がご実家の齋藤靖さん。現在はいわき市にお住まいです。妻、靖子さん。(写真右) 靖子さんの妹、宇波野さんご夫婦(写真左)。

人と人とのつながりを大切に



つきだてて花工房の うちあけばなし

昭和15年度卒新田小学校同級会

「当時、堰本村(現在は合併して梁川町)には大字ごと小学校があつてね…その時代の写真を見ると制服を着ているのはクラスに1人ぐらい、あとはみんな着物なのだから、貧しかったんだね。」と話してくれたのは今回仙台市から出席してくれた数少ない男性のひとり、菅野善次郎さん。

もうひとりの男性、佐藤幸治さんは、同級会の日まで何度も花工房に足を運び、会をまとめる名幹事さん。花工房での同級会は昨年続いて2度目である。

女性の皆さんは「また来年も花工房ね」、「年に2回でもいいね」と、お元気で明るい。戦中戦後を生きてくれた皆さんが、今の日本を支えてきてくれたのかと思うと、その強さに学ぶべきものが詰まっているような感じがした。



新田小学校同級会のみなさま

最後に幹事の佐藤さんが「ハイ、お土産です。今年は去年より奮発して葉わさび、月舘町の特産ですからね」と、PRをしながらか皆さんに手渡す。心くばりに感謝。お土産を手にした皆さんは、再会を誓いながら笑顔で帰路につかれた。またきつとお会いできそう、そんな予感を感じながら手を振った。

ご案内

- 宿泊 1泊2食付…6,500円～(1部屋5名様以上の場合)
- 日帰り入浴…10:00～18:00 大人300円 小学生150円
- 個室休憩…11:00～15:00(1日4組様まで)
- ランチ営業…11:30～13:30(ラストオーダー)

つきだて花工房にバロックの風 想い伝わる演奏会

山崎充子チェンバロコンサート



1部では小手小学校の全児童35名が演奏会に訪れました。子供たちが演奏するリコーダーとチェンバロのアンサンブルが実現、音楽の先生が奏でるチェンバロにあわせて、合唱も行ない、子供たちも、それを聴く大人達も、音楽の楽しさを体感しました。2部では演奏の合間に音の出る仕組みやチェンバロの歴史にも触れ、多くの方にその音楽に親しんでほしいという想いが伝わりました。ほとんどの方がチェンバロを見ることも聴くことも初めて。2部にわたる演奏は大変ハードなものと察することができましたが、アンコール曲は胸に迫る演奏でした。

チェンバロを知ってほしい...その熱意で実現した今回の演奏会と、山崎さんとの出会いに心より感謝しております。



フレミッシュチェンバロ

山崎充子さんから届いた手紙

福島のみなさまにチェンバロを紹介したいと思いましたが、チェンバロの音をそばで聴いてもらいたいし、実際にさわって音をだしてみたいと思っております。どんな仕掛けで発音するのか、ピアノとどのように違うのか興味をもっていたら嬉しいと思います。

演奏曲は1542年から1623年にかけて活躍したエリザベス朝最大の作曲家バードに始まり、バッハと同時代でフランスにおいて活躍したデニブリー、クーランソとしてチェンバロのために作曲された最後の曲「ベートーヴェン」月光など弾きながらお話しをしたいと思います。



「コラッセふくくしま」で演奏会

山崎充子さんのお母さま「長澤知子さん」の木版画集出版記念作品展「むくくまな彩り」が8月30日(月)〜9月5日(日)まで「コラッセふくしま」5Fフレゼニアン・イン・スペースで開催されます。8月31日と9月5日は山崎充子さんのチェンバロの演奏が予定されているそうです。どうぞお楽しみに!

東京月館会が結ぶ 都市と農村の交流

5月、東京月館会のふるさと探訪に、「江戸芸かつぼれ」千駄木道場」の皆さまが同行され、交流会では息の合った「かつぼれ」を披露くださいました。



今回2度目の来町となった千駄木道場の皆さまは、静かな山並みに囲まれた自然に囲まれた月館町が大好きになりました。粋な浴衣にねじりはちまきが似合う皆さんは、自分で掘った朝採りのたけのこや、月館産のコシヒカリを両手に抱え、笑顔いっぱい月館町を後にしました。

香りの花束 ●●●●● タッジー・マッ



手のひらサイズのハーブの花束「タッジー・マッ」は、災難から身を守り、幸せを運ぶといわれています。



秋山料理長の「旬を楽しむ」

夏のひとしな 揚げ子と隠元の とろろソーメン



- 食材(3人前)
①長芋(すりおろし)1合(180cc)
隠元適量 そろめん適量 ②大葉 花茗荷(刻み) 梅肉各適量
- ③そばたれ(※2合(360cc))
- ※かつを出し汁(水、本だしでも可)6カップ うす口醤油(こい口でも可)1カップ 味噌1カップ かつを節、出し昆布適量
- ※鍋に入れ、火にかけて沸騰前に火を止める。冷めたら漉す。 卸し生姜1個

●作り方

茄子、隠元を油(180℃位)で素揚げし、水にさらしたあと油抜きをし水気を取っておく。沸騰したそばたれに生姜、茄子、隠元を入れ、ひと煮立ちしたら火を止め冷水で冷ます。長芋(1合)をそばたれ(2合)で少しづつ混ぜ合せ、冷ましておき、そめんにかけて、①、②の食材を盛り付けて食す。

◎ワンポイント

とろろとそばたれが分離しないように、よく混ぜてください。食材を二晩冷しておくと、いっそう美味しく召し上がることができます。

ムーン講座 HERB教室

6月、木々の緑もハーブの花たちも輝き香る美しい季節、つきだて花工房ではおなじみの夕起先生のおなごのハーブ教室です。今回はフレッシュハーブで、香りつくりました。素材で花の形も小さめのハーブのブーケは可憐な感じに仕上がります。まず中心にする花を決めましょう。あとは色と形のバランスを考えて、トライアングルにまとめてゆきます。こうしてできあがったブーケは、生花として飾った後も、ポプリにしたり、台所でスパイスとして使用したりと活躍してくれます。



はみだし コーナー

花工房ライブラリー●夏休み「手塚治虫」を網羅する
火の鳥/ブッダ/陽だまりの樹/アドルフに告ぐ/BLACK JACK

楽・百人一首<春>

ほととぎす 鳴きつるかた方をながむれば ただ有明の 月ぞ残れる

※夏を代表するほととぎすは、明け方「テッペンカケタカ」と鋭い声で鳴きます。

明け方の空にうっすらと残る月とともにまだ漂っているような美しい初夏の一瞬をとらえた歌です。

“麦” まめ辞典

保存版



日本晴れが続き
稲がすすくと育つ傍らで
刈入れを待つ麦畑が
黄金色に染まっています。

麦の穂が実る季節
「麦秋」
麦の穂が波打つ光景に
風の道を見つけました。

夏の季語には
麦わら帽子、麦わらとんぼ
どこか懐かしい響きのする
言葉です。

「麦秋」とは

麦を取り入れる季節、初夏のことを指します。一般に収穫と言えは秋ですが、麦にとってはこの時期が、「収穫の秋」という意の美しい日本語です。

「麦踏み」の重要性

早春の新芽を踏みつける「麦踏み」。地面の浅いところに短い根を張っているだけの麦の根が、霜柱に押し上げられ乾燥して枯れてしまうのを防ぐため、足でしっかりと地面を踏みしめます。麦踏みをする事で、上ばかりに伸びようとしていた麦の成長が一時的に止まり、後々立派な麦に成長するのです。

「月館産小麦、絹吾妻」

絹吾妻は、もちでんぶん質を多く含み、粘り気が強く、うどん作りに最適な小麦と言われています。平成12年、月館町では町内産の絹吾妻を100%使用したうどんを誕生させました。名づけて「小手姫うどん」です。

「うどん街道」への夢

食は文化と言われます。古くは主食でもあったうどんの文化が、月館町に復活したわけです。わが町の風土で育った素朴な粉が、小麦本来の旨味を生かしたうどんに生まれ変わり、その「小手姫うどん」を求めて多くの人々が集う町、その街道ならぬ「うどん街道」が全国に発信できたらと、夢は膨らみます。

速報!

つきだて花工房 リーディングアラウドの会 第1回夏のセミナー 参加者募集

平成14年「世界がもし1000人の村だったら」、平成15年「泣いた赤おに」と「秋の夜長の小さな朗読会」で、心に染みる朗読を聴かせてくださったナレーター島岡安芸和さんを講師にお迎えして、第1回朗読セミナーを開催いたします。参加希望者は今すぐお申込みを!



◆島岡安芸和さんより

「発声、滑舌、イメージション、コミュニケーション」トレーニングをした後、実際に朗読をしてみます。声を出すことは健康にも大変良いこと!楽しみながら声に出して本を朗読してみましよう。最後に受講生のみなさんと、小さな朗読会ができたらと考えています。」

【日程】7月24日(土)・25日(日)の2日間
【時間】1日目 13時~17時
2日目 10時~17時

【対象者】高校生以上

【受講料】2,500円(2日分)

【講師】島岡安芸和氏

【お申込み】 ☎024(573)3888

つきだて花工房
リーディングアラウドの会まで

ムーン講座 受講者募集

はなくらぶ

- 絵手紙教室
7月26日・8月23日・9月27日
- アロマアラービィ教室
7月5日(アロマキャンドルづくり)
- ハーブ教室
9月13日(ハーブバター、ハーブチーズづくり)

各コースとも月曜日の午前10時~

お便り コーナー

短い一言で、心が届きます。
この夏、懐かしいあの人に送る絵手紙を描いてみませんか!



福島市・佐藤正江様



梁川町・菅野澄子様

木もれ日通信17号 読者プレゼント

つきだて花工房オープン月を記念して、今年もヘア宿泊券をプレゼント

「応募方法」 1.官製はがきに、郵便番号と住所、氏名、年齢、電話番号、木もれ日通信への感想やご要望を記入のうえ、17号の応募券を貼って、つきだて花工房までお送りください。(応募券が無いものは無効となります) 8月31日の消印まで有効です。

抽選で1名様にヘア宿泊券、2名様に月館特産「小手姫うどん」をお贈りいたします!

INFORMATION

今年は会場が変わります!
ユリの祭典、リリーフェスタが
つきだてニータウン
夢見の郷で開催
7月17日(土)・18日(日)の2日間
詳しいお問い合わせは
月館町役場総務課企画係まで
☎024(572)2111

ご注意ください

つきだて花工房
8月は休館日が変則です。
8月3日(火)、24日(火)、25日(水)、26日(木)
休館日の前日は17時で閉館。



小籠いっぱい桑の実
桑の実提供:月館町 藤田・斎藤さん

編集後記

過日、汗だくになって桑の実採りを体験しました。「唇を紫にして桑の実を食べた、懐かしいなあ」とよく伺うのですが、残念なことにはその記憶がなく、桑の実はもとより、こんなにも身近にあった桑の木をじっくり観察したのは初めてです。養蚕業の衰退で桑山が荒れ、実がなる桑の木は100本に1本だそうです。貴重な桑の実で、ジャムとピクルスを作りました。

時間の加速度は増すばかり。そろそろ時計の針を逆戻りさせ、消えかけている大切なモノを見つめ直す時期。とはいえ、私などはその手だてがまるでわからず...:それを知っている人生の先輩たちが頼りです。(佳代)



月の明かりで疲れた心を癒したい。
いまずくカレンダーにチェック!!

7月 2日(金)	7月17日(土)
8月 1日(日)	8月16日(日)
8月30日(月)	9月14日(火)

木もれ日通信17号
読者プレゼント
応募券